

コラージュ技法

Q5 児童生徒が作品づくりを通して、自らを表現し、受け入れていくような技法には、どのようなものがありますか？

コラージュ技法とは、こんな技法です

ねらいと実施の流れ

コラージュ (collage) とは、フランス語で「のりづけする」ことです。雑誌やカタログの写真から、好きなものや心に引かれたものを切り抜き、それらを画用紙の上にレイアウトして、のりで貼ります。砂の上に玩具を並べる「箱庭療法」というものがありますが、それをどこでも簡単に平面上で行えるように考案されました。「切る・貼る」という動作が、心の「拡散・統合」につながるとともに、作品として内面を表現することが、自己治癒を促します。

つまり、コラージュ技法は次のようなねらいをもって実施できます。

○意識・無意識の部分を形として表現する。 : (自己表現)

○「自分が知らない自分」に気付くことができる。 : (自己理解)

○自己の内面を表現したことで癒される。 : (自己治癒)

他にも、実施の方法によって様々な効果が期待できます。

コラージュ技法の基本的な流れ (マガジン・ピクチャー・コラージュ法) は、次のようになっています。

※ マガジン・ピクチャー・コラージュ法=雑誌などから直接ハサミで切り取り、画用紙等へ貼り付ける方法。

事前準備

○画用紙 (八つ切り, 四つ切り) ○はさみ (先の丸いもの) ○のり
○写真の多い雑誌・カタログ・パンフレット・広告等

コラージュ作成 (30分~1時間程度)

児童生徒への指示 「雑誌やカタログの中から、好きなものや心に引かれたものを切り抜いて、画用紙に貼ってください。」

雑誌等の写真から、好きなものや心に引かれたものを自由に何枚でも切り抜く。それらを画用紙の上にレイアウトして、のりで貼る。

作品鑑賞

児童生徒同士や教師と児童生徒で作品を鑑賞し、質問や感想を述べ合う。

主な育つ力 (研究構想図との関連)

〈適応する力〉

・自己表現…自分の内面を作品として表現すること。

〈理解する力〉

・自己理解…自分自身のことをよく理解すること。

・他者理解…仲間をかけがえのない大切な一人の人間として受け入れること。

コラージュ技法の活用のポイントと留意点

ポイント1 安心できる空間をつくろう！

コラージュの画用紙は、その人にとって自由かつ保護された空間です。画用紙という枠があるからこそ安心でき、その中で存分に表現することができるのです。

そして、コラージュ制作をする場所もまた、安心できる空間でなくてはなりません。制作中、教師は静かに寄り添う感じで空間を共有します。児童生徒が集中して制作できるように、少し離れた場所から時々目を向ける程度がよいでしょう。じっと見つめる、あれこれ話しかけるなどの積極的なかわりは禁物です。児童生徒も私語は控えます。そうした静かな落ち着いた空間で制作することが、内面の表出や自己治癒につながります。

ポイント2 児童生徒理解のための視点をもっておこう！

コラージュは、制作する本人にとって自己治癒を促す有効な方法であると同時に、他者が本人を理解するきっかけにもなるものです。

教師は、児童生徒理解のために次のような視点をもって作品を鑑賞しましょう。

- 作品はどんな印象か。(楽しい、さびしい、元気がない、まとまりがない等)
- 本人はどんなものに興味があるのか。
- 本人が現在どんな自己像をもっているか。また、目指す自己像はどんなものか。
- (初めてでなければ)これまでの作品との共通点、変化はあるか。

ポイント3 児童生徒とのかかわりに生かそう！

完成した作品をもとに対話をすることで、自己理解、他者理解、さらには人間関係が深まります。言葉での表現が苦手、話のきっかけがつかみづらいという児童生徒とのかかわりにも、とても有効です。

作品を見ながら、次のような言葉をかけるとよいでしょう。

- 作品についての質問
 - 「この作品にタイトルをつけるとしたら？」「テーマは何？」「どんな場面？」
 - 「この中に自分はある？ いるならどれ？」(自己像を探る)
 - 「ここはどこだろう？」
 - 「この人はどうして笑ってるんだろう？」(場面設定を詳しく聞く)
- 作品についての感想・気付き
 - 「楽しそうな雰囲気だね。」
 - 「動物がいっぱい出てきているね。」「好きな動物は何？」(会話を広げる)

【作品と言葉かけの例】



「カラフルな車がいっぱいあって楽しいね。」
 「〇〇さんはどれに乗ってるの？」
 「この車に乗ってどこに出かけたい？」

「おもちがおいしそうだね。」
 「〇〇さんはこの中にいるの？」
 「この年賀状はだれに送るの？」
 だれかからもらったのかな？」



コラージュ技法の実践例

教師がコラージュ技法を行う場合は、作品の心理学的な解釈を求めるよりも、児童生徒の自己治癒を目的に、また教師と児童生徒及び児童生徒の相互理解や人間関係づくりのきっかけを目的に活用するのがよいでしょう。

不登校児童生徒と教師の関係づくりに	
実施時	児童生徒が別室に登校しているとき。または、教師が家庭訪問したとき。
目的	欠席の多い児童生徒とはどうしても接点が少なくなり、関係づくりが難しくなる。また、集団不適応の児童生徒は自己表現が苦手な場合が多い。コラージュ技法によって、自己表現の場をつくと同時に、作品を通じたかわりかかわりで教師との関係を築き、児童生徒理解の手がかりとする。
方法	<p>○用具は教師で準備する。雑誌等からあらかじめ写真をたくさん切り抜き、箱に入れておく方法もある。(コラージュ・ボックス法)</p> <p>○気に入った写真を切り抜いて(選ばせて)画用紙に貼らせる。</p> <p>※制作に抵抗を示すようであれば、教師が同時に制作してもよい。また、次に会うときまでの宿題にしてもよい。</p> <p>※継続的に取り組むことで気持ちの変化を見ることができ、理解が深まる。</p> <p>※本人の許可を得られれば、他の教師や児童生徒に見せてもよい。</p>

年度初めの自己紹介の材料に

実施時	4月の学級活動・ホームルーム活動で自己紹介をするとき。
目的	毎年新学級のスタートには自己紹介をする。その際、「自分」「今年のわたし」といったテーマを設定してコラージュを制作させる。それを見せながら自己紹介をさせることで、児童生徒同士の他者理解を深める。
方法	<p>○学級活動・ホームルーム活動の時間に、テーマにそってコラージュ制作を行う。自分の好きなもの、興味のあることなどを貼り合わせる。サインペン等で少し書き込みをしてもよい。</p> <p>○できた作品を見せながら、自己紹介をする。</p> <p>○グループになって質問や感想を出し合うと、他者理解がより深まる。</p> <p>○使用後は、教室に掲示しておくのもよい。</p> <p>※学級で一斉に行うので、用具は各自で準備させるが、雑誌は教育的でないものがないように配慮する。</p>

集団のまとめりや意識の向上に

実施時	学校行事の前や学級で班活動に取り組む前に
目的	学校行事や学級内での班活動には、メンバーのまとめりが必要である。グループで一つのコラージュをつくるという活動を通して、相互理解を図り、人間関係を築くと同時に、協調性や目的意識を養う。
方法	<p>○グループで今後の活動に向けてのテーマ・目標を決め、それを一つのコラージュで表現する。人数が多いので、大きめの画用紙か模造紙に貼る。</p> <p>○完成後、制作しての感想や、今後に向けての抱負などをグループで語り合う。</p> <p>※貼る物で一人一人の個性が表現されつつも、貼る位置や並べ方には協調性が求められる。</p> <p>※グループのメンバーで一つのものをつくり上げた達成感が得られ、団結が強まる。</p>